

※ 講義名	望遠鏡を使ってみよう (小型屈折/反射望遠鏡[赤道儀・経緯台共通])		
種別	実技・選択科目	コード	check-S4-forAll
氏名 (試験を受ける方)	受講番号()		
講座受講日	20 年 月 日	担当講師	
実技試験実施日	20 年 月 日	天候	
判定	合・否 (どちらかに○)	試験実施者氏名	
コメント			
合格基準	講座受講の上、チェック項目10個のうち8個以上チェックがあり、 <u>チェック項目6のチェック</u> があること。		
試験時間の上限	開始から終了まで50分 (危険な操作で即中止の場合あり) 受験者は十分な練習をして実技試験に臨みましょう！		

太枠内を記入の上、ご持参ください

チェック項目の集計 ※試験実施者は合格した項目に番号にチェックを入れてください。

1	2	3	4	5	6(必須)	7	8	9	10
架台設置	鏡筒	接眼レンズ	ファインダー	各部調整	導入	接眼交換	倍率	片付け	

※ 試験実施者へ：**ゴシック体(太字)**の文章は試験実施者のセリフです。アンダーラインは注意事項です。試験終了後、チェックシートを完成し、実施団体代表あるいは成績管理者に提出してください。

※ 採点上の注意：機器を破損する恐れのある操作をしようとした時は注意または制止し、該当項目はチェックしないでください。

※ 単位認定チェックシートは必ず本制度のホームページに一般公開されているものを使用してください。

※ この認定チェックシートは事前に受験者に配布して試験内容を十分周知し練習できる環境を整えてください。



※ 試験結果はコピーするなどして受験者と実施団体の成績管理者の両方が保持できるシステムにしてください。

※ ファインダーの調整の判定はチェック項目6の時に実施し、チェック項目3にチェックしますが、判定基準についてはファインダー視野の1/4程度を目安(右図)としますが、機種依存性もありますので、必要に応じて実施団体ごとに試験実施者の間で基準について申し合わせておくようお願いします。この基準については、講義の際に受験者にも周知するようお願いします。

※ 試験時間はあらかじめ実施団体において決定し、受験者にあらかじめ知らせるようにしてください。時間内に終わらないときは試験を中止してください。

試験を開始する前に、試験実施担当者と受験者の両方で試験のために必要な機材が整っているか、また、試験実施場所の環境が良好であるかを相互に確認してください。

これから、「望遠鏡を使ってみよう」の実技試験を始めます。

(ステップ A: 望遠鏡を設置・調整すること)

では、天体望遠鏡を使用できる状態に設置し、必要な調整を済ませてください。完了したら完了したとおっしゃってください。

1□ 脚(三脚、ピラー等)、架台を組み立てて、水平で安全な場所に設置することができる。

次の操作を含みます。

- ・三脚では適切な高さに調整すること、
- ・赤道儀ではバランスウエイトを適切に取り付けること、
- ・赤道儀では極軸をおおよそ天の北極に向けること、
- ・駆動系を持つ機種では必要な配線・接続ができていること。

2□ 鏡筒を正しく架台に乗せることができる。

3□ 接眼レンズ(アイピース)(低倍率のもの)を装着できる。

4□ ファインダーを取り付け、調整する。

(ファインダーの取り付けが適切で、調整作業をしたかをこの場では確認してください。ファインダーの調整の精度の最終チェックはチェック項目6の時に行って、そのあとでこの項目のチェックをしてください。試験実施者が試験開始前にファインダーの方向をわざとずらしておくのもいい考えです。)

5□ 導入前の調整を適切に完了することができる。

次の操作が適切な手順で行えていたら総合的に判定しチェックしてください。

- ・バランス調整ができていること、
- ・操作に必要なすべての部品等が適切に装着できていること、
- ・自動導入では必要な操作を実施すること、(機種によりますが、同期(アライメント)はチェック6の導入操作に含めてください)。

(ステップ B: 人に見せるように導入・調整すること)

それでは、実際に2つの目標天体(目標物)を導入し、見せてください。導入前に、「これから〇〇を導入します。」と大きな声で言ってください。(目標天体(目標物)は受験者がその場の判断で自ら決めることとします。屋内や曇りの場合などでは、天体ではなく目標物で代用することができます。)(必要があれば、天頂プリズムの使用を促して結構です。)(自動導入機能を持つ機種では一つ目の天体を手動で導入し、二つ目の天体を同期(アライメント)の操作をした上で自動導入することでこのステップのチェックをしてください。)

6□ 二つの目標天体(目標物)を実際に導入でき、ピントを合わせることができる。(必要な場合は天頂プリズムを装着できる。)

(試験実施者はここでファインダーをのぞいて導入された目標天体(目標物)がファインダーの中央になるよう調整されているか確認ください。調整されていてばチェック項目3にチェックを入れてください。)

接眼レンズ(アイピース)を交換して倍率を高くし、ピントを合わせと位置合わせをおこなってください。その際、新しい倍率がいくらかを言ってください。

7□ アイピースを交換した後のピント調整、位置合わせができる。

8□ 倍率を言うことができる。

倍率は計算式を示すか、手元の計算機(携帯電話等の計算機能)で計算しても構いません。

(ステップC：片付けること)

それでは、望遠鏡を片付けてください。片付けが終わったら、「片付けが終わりました。」と大きな声で言ってください。

9□ 接眼レンズ(アイピース)等を取り外し、鏡筒を所定の位置に片付けることができる。

ファンダーを取り外すタイプの望遠鏡では取り外し、正しく収納できる。

10□ 脚(三脚、ピラー等)、架台を取り外し、全ての機材を正しく元の位置に収納できる。

駆動系を持つ機種では、配線・接続などを外して所定の場所に収納できる。

(片付けが終了した旨の宣言があったら。)

それでは、実技試験を終了します。